

1. 教育実習で苦労したこと、つらかったこと、うれしかったこと、感動的なエピソード
教育実習では、特に次にあげる4点に苦労をしました。

1つ目は、授業ペースをクラスごとに合わせることが出来なかったことです。作業を止めることをなかなかしない諦めないクラスと指示を出してすぐに指示通りに行動するクラスがあるように、クラス毎の雰囲気やペースをすぐに判断できませんでした。そのため、次回からは授業担当させてもらうクラスの雰囲気を出来るだけ他の教育実習生や先生に聞くようにしました。

2つ目は、説明の仕方が悪く生徒の理解を促進させることが出来ませんでした。授業で関数電卓の使い方を説明するときに口頭で説明した後に板書することを忘れてしまい、生徒からたくさんの質問を受けました。また、ホームルームを担当させてもらったクラスでは、最初のころ朝礼と終礼の連絡事項を伝えるときにポイントを押さえてできませんでした。途中から、連絡事項をする時にどの順番で伝えるのか、どのように話すかを生徒が小テストをしている間にイメージするようにしていました。

3つ目は、初めのころ声の大きさがよく足りなかったことです。特に朝礼・終礼の時に教室が騒がしくなると、声が届かなかったため注意を促すことがあまり出来ませんでした。そこで、担当の先生から声を大きくする他にも連絡放送中から静かにさせたり、名前を早く覚えて名前を読んでから注意をするとよいとアドバイスをもらいました。そのため、まず名前を覚える努力をしました。特にテスト中に生徒の名前を覚えるようにしました。それと同時に少し教室が静かになった瞬間を狙って注意を促すようにしました。

4つ目は、メリハリをなかなかつけられませんでした。メリハリをつけることは授業以外にも朝礼・終礼でも重要なことであつたにもかかわらず、なかなかできませんでした。授業で生徒に動画を見せる回があり、そこであまり生徒が動画を見ようとする体制になっていない状態で始めてしまいました。そのため、出来るだけ自分が話し出す前に一声を入れるようにしました。

他にも授業テクニック不足や話す予定だったことを飛ばしてしまう、知識不足などの反省点がありました。実習中に見つけたこれらの自分の足りない部分をこれから補っていきたいと思いました。

また、教育実習中に嬉しかったこともたくさんありました。生徒に話しかけるときに名前をいってから話すと、「先生、すごっ」と言われた時はうれしかったです。また、実習最終日に担当させてもらったクラスに写真のコラージュをプレゼントしました。その後、実習簿を取りに母校へいった際にクラスへ見に行くと、黒板に飾ってあってとても嬉しかったです。

2. 教育実習を通じて学んだこと、感じたこと、考えたこと

今回の教育実習で学んだことは、教員は対応力が大事であるということです。なぜなら、たくさんの生徒と過ごす中でいろんなハプニングが起きたり、授業やそれに関わることの他にクラス担任を持っていると雑務までします。そのため、普段から何が起きてもいいようにいろんな対策を考えたり、とっさの判断を鍛えなくてはいけないと実感しました。

また、実習中に教師という仕事の魅力をたくさん感じるがありました。例えば、実際に生徒と関わることで私の教師像を見ることができ、より強く教師になりたいと思いました。そのため、これからより一層の努力をしていきたいと思います。

3. 将来どんな教員になりたいか

実習中、生徒から「いい先生になってください」と言われました。そのため、「いい先生」になろうと思います。しかし、「いい先生」というのは抽象的で人によって考え方が違います。私が考える「いい先生」のポイントは2つあります。1つ目は、「生徒のことをよく考えていること」だと思います。やはり、生徒のことを思っていないと授業の内容や仕方、発言、行動に出てくると思います。そして、生徒にもいづれ分かってしまうのではないかと思います。2つ目は、「生徒とよくコミュニケーションを取ること」だと思います。生徒と普段からコミュニケーションを取っていると、より双方向な授業をすることが出来たり、生徒の悩みに気づくことが出来ると思います。「いい先生」を目指して頑張りたいとも思います。